

天和時代の仁和寺の地図（天和古図）

天和古図は、現在の姿になった仁和寺の現存する中でも最古の地図です。この地図は、1683年に作成されたもので、1646年の再建後の仁和寺を描いています。金堂（本堂）、五重塔、観音堂、九所明神、金堂へ至るまでの間に通る三つの門、1887年の火災で焼失した旧御室御殿など、主たる建造物がすべて描かれています。また、江戸時代（1603～1868）後半に仁和寺が花見の季節に境内を一般公開したことで人気を博した御室桜も描かれています。

この地図は、再建事業を担った棟梁の奥田和泉掾が描き、天和時代（1681～1684）にちなんで名づけられたものです。霊元天皇（1654-1732）の第2皇子の覚観法親王（1672-1707）を新しい門跡として朝廷から迎えるにあたって、1683年に行われた保全作業の一環だった可能性もあります。